中間報告書
第一回（2013 年 9 月 20 日～12 月 20 日）

国際ロータリー第 2690 地区
2013-2014 年度地区補助金奨学生
海野　歩未

デンマークとコペンハーゲン大学について

2013 年 9 月より国際ロータリー第 2690 地区奨学生としてデンマークはコペンハーゲンでの学業生活が始まりました．デンマーク王国はバルト海と北海に挟まれたユトランド半島とその周辺の 400 以上の島々からなる北欧 4 カ国の一つで，面積は日本の 1 割強，人口は兵庫県の人口に匹敵します．私が学業生活を送るコペンハーゲン大学は約 38,000 人の学生と 9,000 人の研究者と職員を抱え 530 年以上の歴史のあるデンマークで最大の大学です．100 を超える学部，学科，図書館，研究所，美術館を有し，その中で私は社会科学部心理学科に所属しています．ローゼンボー城に隣接した大学が所有している植物公園内に建物が位置している美しく静かな環境に囲まれています．

（コペンハーゲン大学　社会科学部）

学業面での成果

心理学科で私のスーパーバイザーである Jesper Dammeyer（ヤスパー・ダムァ）先生とは到着した翌日に初めてお会いしました．先生とは私のオフィス環境や先だって手助けしてくれる同僚の研究者，具体的な私の研究活動について話をすることができました．私は心理障害研究ユニットのメンバーの一員として他の研究者とともに情報を共有したりアイディアを出しあったりして各自のプロジェクトやユニットとしての研究活動を進めていくことになります．ここの心理学科は大学機関としては珍しく殆どの研究者はデンマーク人が占めており，彼らはデンマーク語でやり取りしメールも殆どデンマーク語のみで書かれています．心理学という学問はその国の哲学や思想と強く関連していることから，外国人の私からすると彼らはこれまでの自分達の心理学の歴史や伝統を重んじている印象を強く受けました．それらのことで大学内での情報を正しく受け取ることに最初はつまずくこともありましたが，殆どの研究者はとてもフレンドリーで親切なので，私が困った時にはいつでも自分のことのように寄り添って助けてくれます．

私の臨床研究活動はデンマークと日本の小学校で子ども達と関わりながら進めていくことになるので，まずはデンマークの教育制度や実際の学校現場について学ぶところから始める必要がありました．デンマークにも日本でいう文部科学省のような教育に関する政府機関があるものの，実際の制度や方針などはそれぞれの自治体や学校に任されています．また，障害のある子どもへの特別支援教育の方針はインクルージョンであり，人を人種，民族，宗教，性別，年齢，能力などの違いによって区別するのではなく，多様な人が対等にかかわりながら一体化していく状態を意味する概念の元に教育が進められていることが分かりました．私の研究は日本とデンマークの

（心理学科）

双方で実施されることになるので，先行研究や使う教材などは双方の国と英語のものを読み準備したりする必要があります．また，研究計画についてもヤスパー先生を始め同僚の研究者，日本の研究者などと何度も話し合いを重ね，意見を聞き，練り直しました．それを通して自分の計画の目的とその意味づけを具体的で明確に定めることができ，方法についても私の独自性や新奇性と関連させて考えることができたように思います．

デンマーク人はとにかくよく喋ります．日本人は会議などで発言する時には，それまでの話の内容や流れ，参加している人の立場なども考慮した上で自分の意見を伝えますが，デンマーク人は前後の脈絡を意識したり場の雰囲気に配慮したりすることが少なく，とにかく一人ひとりがその時に頭に浮かんだことをどんどん発言していきます．研究者同士の会議で最初にその光景を目の当たりにした時は，状況が整理できずに混乱しました．しかし，次第に慣れていくうちに，そのような状況の中で自分が必要な情報やヒントが何かを見分けることが大切であることに気づきました．同時に，お互いに考えていることを理解し合い共有し合うことがこの国の文化の一つであると感じました．

受入地区でのロータリーとの関わり，奉仕活動，カウンセラーとの交流

私は受け入れ先のコペンハーゲン国際ロータリー第 1470 地区のゲストとして迎えられカウンセラーの Ole Wiberg（オール・ウィバーグ）さんとは，私がコペンハーゲンに到着した 9 月 10 日の翌日にお会いし，コペンハーゲンの公共交通機関の利用の仕方，街のラウンドマークの場所，そして大学での手続きといった先だって必要なことに関してお手伝い頂きました．彼は東日本大震災の際に所属地区発足のチャリティ活動を献身的に行っただけでなく，日本を訪れ日本の支援団体とともにその活動に尽くされたという話を伺いました．過去にも日本からの奨学生のカウンセラーをされ，彼らのデンマークでの学業の様子や現在の活躍について嬉しそうに語られていました．そして，今後も日本とデンマークの友好関係を継続して築いていきたいとおっしゃってい

ました．Ole さんや事務局の Anne-Marie（アン・マリエ）さんはいつも私の相談に親身になってのって下さり，会ってアドバイスを下さるだけでなくデンマークの色々な話を聞かせて下さったり前向きにデンマークでの生活や学業に取り組むためのヒントを与えて下さったりします．

（コペンハーゲン国際ロータリークラブの例会にて．カウンセラーの Ole さんと）

私はコペンハーゲン国際ロータリークラブで毎週月曜の夕方に開催される例会に参加することとなりました．そこでは，20 名から多い時で 30 名程度のロータリアンが参加し，毎回国内外のゲストスピーカーが招かれ彼らの社会貢献活動について話を聞き，その後は参加者同士でディナーを楽しみながら会話を楽しみます．難民支援活動，自然災害地域への支援，セクシャルマイノリティ，金融問題など，幅広いトピックスについての話を聞く貴重な経験をさせて頂いています．コペンハーゲンは国際都市ですので，国内外の交流が盛んです．外国からコペンハーゲンへ移って来たロータリアンが例会に参加したり，一時的に外国で活動していたロータリアンが再び戻ってきて海外での活動の話をしたりと毎回例会では様々な人や話題との出会いがあります．

またその例会で私自身の研究内容について皆さんにお話する機会を与えて下さり，他の奨学生とともに例会でプレゼンテーションをしました．英語でのプレゼンテーションは初めてだったのでとても緊張しましたが，日本の文化や皆さんが支援して下さった東北の様子そして私の学業についてお話することができよい経験となりました．

さらに，主に 20 代の若者のロータリアンが所属するロータラクトの活動にも参加しています．若い人たちが世界で困っている人や地域に対して自分達の得意な方法と斬新なアイディアで貢献している様子はとても頼もしいと思いました．

直面した課題，問題点等

海外で初めて生活する場合，想像もできない色々な課題や問題が生じると思います．ですが，私の場合幸いにも日本とコペンハーゲンのロータリアンの方々の支援と，大学の先生や同僚たちの手助けの中でスムーズに海外での生活と学業をスタートすることができました．コペンハーゲンの住宅事情は深刻で需要に対して供給が全く間に合っていない状態です．デンマークでの生活

を準備する上で一番困ったのは住居探しでした．それ以外の例えば交通機関の利用や治安の問題，食生活や健康面，職場の環境などについて大きな問題が生じたことはありませんでした．何か分からないことがあればいつでも周りの人達がまるで私の家族のように親身になって考えてアドバイスしてくれることは，とても有難いことだと思います．同時に彼らの助けに答えるためにも，研究に励み人の役に立つ成果を残すことを目標に進んでいくことの責任も感じています．

コペンハーゲンでの生活をスタートして 2 か月が経った頃，大学での会議中に意識を失って倒れたことがありました．同僚に連れられて医師のところへ行ったところ，強いストレスがかかっているとのことでした．私のように目に見える形で困ったことが生じていない場合でも，全てのことが新しく知らない人の中で何が起きるか予想できない環境の中で緊張を抱えていたのだと思います．その時に Jesper 先生とお話をして，彼から聞いた次の話はとても印象的でした．

「あなたが困ったことや問題を抱えた時に，それを解決するのはあなたではなく，上司である私である．あなたは自分の強みを生かして仕事をして結果を残すことに責任があり，上司である私はあなたが働きやすい環境を作ることに責任がある．」

「人と一緒に仕事をするということは，我々は互いの強みを生かし能力を高め合うことに責任がある」

デンマークという国で共存・共生する意味について衝撃を受けたとともに，世界でもっとも幸せだと国民が感じる理由の一つを垣間見た気がしました．そして私は私のやり方と私の方法で一つひとつ目の前のことをしていけば良いということを理解した日でもありました．その日を境に私の緊張は少しずつほぐれ，自分らしく生活し，私がするべきことに集中し，色々な人と関わりながら，充実した留学生活を送る前向きな姿勢が出来上がっていきました．

今後の目標

一つにロータリーの奨学生として，デンマークでの具体的な奉仕活動についてロータリアンからアドバイスを受けながら自分ができることを考えていきたいと思っています．これまでもコペンハーゲン国際ロータリークラブの行事やロータラクトのイベントには積極的に参加してきました．数か月後の例会では私の研究プロジェクトについてメンバーにプレゼンテーションをすることになっています．また，コペンハーゲンの他のロータリアンとの交流も積極的に継続して行っていく予定です．

研究活動においては，小学校を訪れたり先生に話を聞いたりして実際のデンマークの学校の様子について観察し学びたいと思っています．また，デンマークでの教員養成や新しく変わる教育制度についても専門家や現場の人達との関わりを通して学び研究に役立てたいと考えています．